

その男、

# 凶暴

につき

製作/奥山和由  
監督・主演/ビートたけし



時代が彼を生み、  
彼が時代を翻弄する  
ビートたけし待望の初監督・主演作品！

若者の圧倒的な支持を受け、そのキャラクターに絶大な共感を呼んでいるビートたけしが、自ら初めてメガホンを取り、彼の魅力をふんだんに見せるハードボイルド・ドラマ「その男、凶暴につき」――。

かつての「過激性」を売りものにしたタレントたちが優等生化してしまった今でも、依然としてアブナイ存在である彼が、あえて「凶暴性」をテーマとした作品を撮ることについて、彼はこう言う。

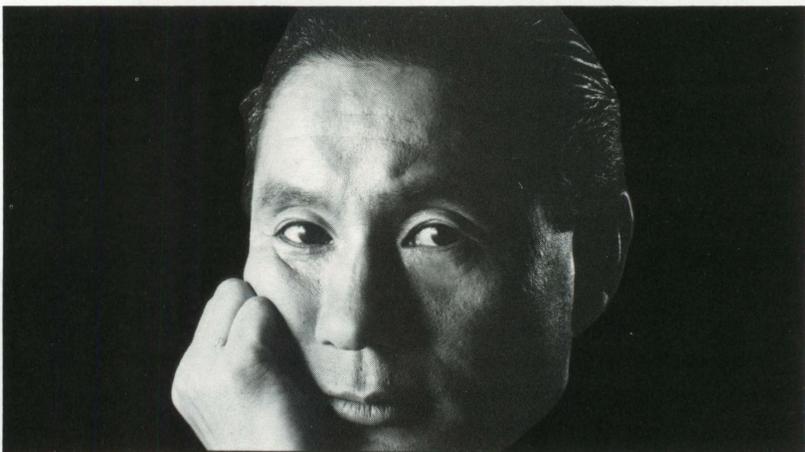
――本物の暴力の怖さっていうのは、拳銃ぶっ放してドンパチすることじゃない。テーブルの上の食器を投げ合うような、日常的に内在するところにあるはずなんだ――。

口で映画化するフィルム・メーカーとして高い評価を受けている。

脚本は「マリリンに逢いたい」「ラッフルズホテル」の野沢尚があたり、人間の本質的な性を強烈にえぐり出すことに成功した。

また音楽はエリック・サティの曲が使われ、画面の激しさとは裏腹な透明感に満ちたメロディが、ビートたけし演じる我妻の孤独感を際立たせている。

暴力の崖っぷちに  
愛が突っ立っている――



見せかけの派手さだけで暴力性を表現することが普通になっている今にあって、本物の暴力のリアリティが映画というメディアでどう描かれるか、彼がTVでみせるキャラクターとはまた別の、ハードな生き様を選んだ男を演じる彼の魅力がどう浮かびあがってくるか、大いに注目されるところだ。

〈戦メリ〉での演技、ラジオのもつ臨場感を強烈に際立たせる話術、テレビでみせる即興性、メディアの特性を否定することから始まる彼の持つ破壊力は、今回の監督業でも健在だ。例えばキャストはすべてオーディションによって選ばれており、あえて「らしい」人は外されていった。彼のキャスティング・センスは、登場人物達のピュアな演技で証明されることだろう。映画のフレームを超えたところにも、彼の映画づくりの姿勢が現れそうだ。

製作は「ハチ公物語」「226」等で、日本映画界に新たな活路を開いた俊英、奥山和由。そのプロデュースぶりは他に類をみず、現代社会において埋没しがちなテーマを斬新な切り

内なる凶暴な声に自ら恐れつつも、突き進む一人の刑事。組織を嫌い、組織からは疎まれる一匹狼には、その無垢な表情とは裏腹に、いつもかすかな血の匂いが漂うのだった……。

人工的な美しさを夜の海面に写し出すウォーターフロント。その美しさとは相反するように、倉庫の裏では淀んだ闇の中に浮浪者を影のように浮かび上がらせる。その浮浪者をとり囲む数人の少年たち。彼らはやがて木刀や鉄パイプを振りおろす……。そして少年たちをみつめる一人の男……。

その男、我妻諒介、39歳。職業、刑事。男は、主犯格の少年のあとをつけ自宅に押し入り、殴る蹴るの暴行を働いたのち、少年を無理矢理自首させる。すべてにおいてそんな調子の我妻は、署内でも異端視される存在だった。やがて麻薬犯罪組織<sup>シンジケート</sup>によって引き起された一つの些細な事件――。男はそこで友人を、そして最愛の妹を失う。行き場のない男の愛は、奔流のような怒りとなって巨大な組織にぶつかっていくのだった……。

●キャスト  
我妻諒介——ビートたけし

●スタッフ

製作／奥山和由

監修／黒井和男  
企画協力／末吉博彦

プロデューサー／鍋島壽夫  
吉田多喜男  
市山尚三

脚本／野沢 尚  
監督／北野 武

撮影／佐々木原保志  
照明／高屋 齋  
美術／望月正照  
録音／堀内戦治  
編集／神谷信武  
監督補／天間敏広

助監督／月野木 隆  
特殊効果／納富貴久男

音楽プロデューサー／佐々木麻美子  
製作担当／貝原正行

製作・配給：松竹富士株式会社

# その男、 凶暴につき

8月12日<sup>土</sup> 待望の  
大ロードショー！  
\* 特別鑑賞券 一般1300円・学生1100円

地下鉄東銀座下車・駐車場完備  
東 劇  
(541)2711

新宿東口・紀伊国屋ビルウラ  
新宿 ピカデリー2  
(352)4043

伊勢佐木町3丁目オデオンとなり  
横浜 ピカデリー  
045(261)2886

川崎駅東口・チネチッタ  
川崎 チネグランデ  
044(211)6125

当日一般1600円/大・高1300円/中学生1200円の処、絶賛発売中！

上映時間は新聞等でお確かめ下さい。